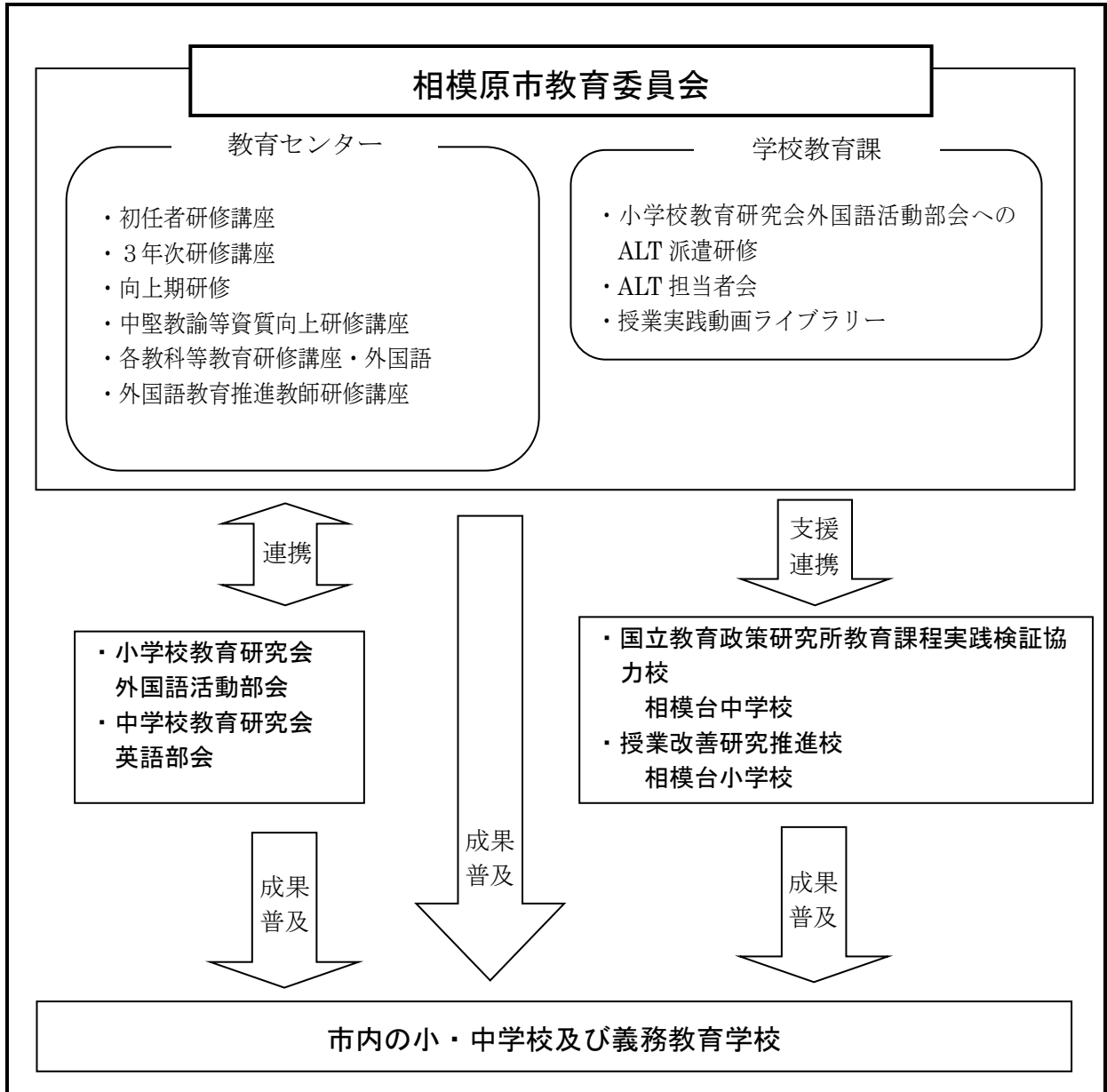


相模原市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【中学校・義務教育学校後期課程】

① 「学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握等）」について

【令和元年度達成値】 100%（設定） 44.4%（公表） 47.2%（達成状況把握）

【令和2・3年度目標値】 100%（設定） 100%（公表） 100%（達成状況把握）

【方策】

- ・ 各研修及び学校訪問等で『CAN-DOリスト』を生徒と共有することの効果を紹介し、全校で公表するようにしていく。
- ・ 相模原市版学習指導案に『CAN-DOリスト』を位置付け、その達成状況について協議を行ったり、学習到達目標の妥当性について検証したりする機会を設ける。
- ・ 各学期1回以上のパフォーマンステストを行うことについても奨励し、『CAN-DOリスト』の達成状況を把握するようにしていく。

- ・相模原市立中学校教育研究会英語部会と協力して、学習評価（パフォーマンス評価、定期テスト等）について研修を行い、達成状況の把握の方法について周知を図っていく。

②「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」について

【令和元年度達成値】	【令和2年度目標値】	【令和3年度目標値】
73.4%	76%	78%

【方策】

- ・各研修及び学校訪問等において、国立教育政策研究所教育課程教育課程実践検証協力校等の取組事例を周知することで各校の授業改善を図り、英語による言語活動が授業の中で行われるように取り組む。
- ・「話すこと」だけではなく、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の言語活動も含めて中学校学習指導要領に規定されている言語活動について、英語教育推進リーダーの公開授業等を通して、再度周知を図り、言語活動の質の向上に向けた取組を進めていく。

③「パフォーマンステストの実施状況（スピーキングテスト及びライティングテスト）」について

【令和元年度達成値】	3.6回（スピーキング）	2.6回（ライティング）
【令和2年度目標値】	4回（スピーキング）	3回（ライティング）
【令和3年度目標値】	5回（スピーキング）	4回（ライティング）

【方策】

- ・小中連携の観点から、単元末にパフォーマンス課題を設定したり、定期考査等においてパフォーマンステストを実施したりすることによって、学習到達目標の達成状況を把握する取組を進める。
- ・各学校へパフォーマンステストの事例を周知し、各学期1回以上の実施を奨励する。

④「英語担当教員の授業における英語使用状況」について

【令和元年度達成値】	【令和2年度目標値】	【令和3年度目標値】
74.5%	76%	78%

【方策】

- ・各研修及び学校訪問、授業実践動画ライブラリー等で参考となる授業や取組事例を周知することで、教師と生徒、生徒同士の英語によるインタラクションを重視した授業改善を図る。
- ・英語教育推進リーダーによる公開授業等を通して、言語活動における教室英語とその活用方法や英語によるインタラクションの効用等について周知する。
- ・相模原市版学習指導案を活用して、単元末のゴールを具体的にし、単元の各単位時間の役割を明確にすることで、コミュニケーション活動の機会を増やし、状況に応じた英語表現を英語担当教員が使用する方法について周知する。

⑤「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」について

【令和元年度達成値】	【令和2年度目標値】	【令和3年度目標値】
43.8%	46%	48%

【方策】

- ・各研修を通して、英語教員の英語力及び英語指導力を向上させる。
- ・英語教員対象の研修等において、英語教員の外部検定試験の受験を奨励する。

⑥「求められる英語力を有する生徒の割合」について

【令和元年度達成値】 【令和2年度目標値】 【令和3年度目標値】
 37.5% 43.2% 46.6%

【方策】

- ・各研修及び学校訪問、授業実践動画ライブラリー等において、参考となる授業や取組事例について周知し、各校の授業改善を図る。
- ・4技能を統合したパフォーマンステスト等を単元の終末に位置付け、単元の各単位時間の指導事項を明確にし、生徒の英語力向上を図っていく。
- ・外部検定試験の受験を奨励する。

○研修実施回数及び受講者数について

【令和2年度達成値】 16回（研修実施回数） 208人（受講者数）※コロナ禍により削減

【方策】

- ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく感染症拡大防止策を講じた上で、研修が教員の過度な負担にならないよう考慮しながら、実施するなどして研修の機会を確保し、できるだけ多くの教員が研修に参加できるようにするとともに、充実した研修となるよう内容を工夫する。
- ・小中一貫指導を念頭におき、小中教員が参加する研修については、中学校区にて情報共有や連携を図ることができるよう意図的に研修を行う。

【小学校・義務教育学校前期課程】

○「学習到達目標の整備状況（設定・公表・達成状況の把握等）」について

【令和元年度達成値】 13.9%（設定） 0%（公表） 13.9%（達成状況把握）
 【令和2・3年度目標値】 100%（設定） 100%（公表） 100%（達成状況把握）

【方策】

- ・相模原市立小学校教育研究会外国語活動部会や教育研究員研究と協力して作成した小学校版『CAN-DOリスト』例の周知を図り、各学校での設定をすすめる。
- ・「小学校外国語パフォーマンス評価実践ハンドブック・改訂版」を活用し、達成状況を把握する取組を推進していく。

○「新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合（%）」について

【令和2年度達成値】 4.2% 【令和3年度目標値】 10.0%

【方策】

- ・小学校全科に英語コースを設定し、募集人数を明記する。
- ・小学校教諭の区分で受検し、次の資格等を有するものについて、1次試験において加点をし、受験者の確保に努める。

TOFEL-iBT（インターネット版 TOFEL） 80点以上

TOEIC Listening & Reading（IPテスト除く） 785点以上

実用英語技能検定（公益財団法人日本英語検定協会） 準1級以上

○「5,6年生におけるALTを活用したパフォーマンステスト(対話・やり取り)の実施状況(回)」について
【令和2年度達成値】2回 【令和3年度目標値】3回

【方策】

- ・「小学校外国語パフォーマンス評価実践ハンドブック」等を活用し、各学期に1回の実施を奨励する。

○「研修実施回数及び受講者数」について

【令和2年度達成値】16回(研修実施回数) 1034人(受講者数) ※コロナ禍により削減

【方策】

- ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく感染症拡大防止策を講じた上で、研修が教員の過度な負担にならないよう考慮しながら、実施するなどして研修の機会を確保し、できるだけ多くの教員が研修に参加できるようにするとともに、充実した研修となるよう内容を工夫する。
- ・小中一貫指導を念頭におき、小中教員が参加する研修については、中学校区にて情報共有や連携を図ることができるよう意図的に研修を行う。

(3) 研修の体系と内容の具体

【中学校・義務教育学校後期課程】

研修名	初任者研修講座
対象	新規採用中学校英語科教員
目的	児童生徒理解を基にした学級経営や授業づくりについて学ぶ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を見る視点からの授業づくりの具体的な手だてや評価について(講義・協議) ・教科の専門性を高めるための多様な指導方法について(選択研修、授業参観・協議) ・生徒の実態をふまえた授業づくりの大切さについて(授業参観・協議) ・新学習指導要領において期待される授業づくりの大切さについて(講義・協議)
受講予定者数	7名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基本について学ぶ。 ・6回実施

研修名	3年次研修講座
対象	経験2年の中学校英語科教員
目的	初任者研修と2年次研修で身に付けた教員としての基礎的・基本的な力を基に、自主的・計画的な授業公開や研修講座の受講を通して、実践的指導力や課題対応力の向上をめざす。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業力向上のための課題について学ぶ(講義・協議) ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業力向上を図るための課題と改善策について学ぶ(公開授業・研究協議) ・公開授業・研究協議を通して、課題と改善策について学ぶ(授業参観・協議・全2回)
受講予定者数	6名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践、授業参観、協議等を通して自己の授業力を向上させる。 ・4回実施

研修名	向上期研修講座
対象	2校目に移動した初年度の中学校英語科教員(令和元年度6年次研修を受講した者を除く)
目的	同僚と関わり合う中での授業研究・授業実践を通して、自分の課題を明らかにし、改善していくことを通して、子ども自身の問題解決力を育むことのできる授業力の向上をめざす。
内容	・同僚と関わり合い、校内で育む授業づくりについて(資料提供) ・公開授業・研究協議を通して、課題と改善策について学ぶ(授業参観・協議)
受講予定者数	3名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	・授業参観、協議等を通して自己の授業力を向上させる。 ・2回実施
研修名	外国語教育推進教師研修講座(小中合同実施)
対象	小学校・中学校・義務教育学校各校1名とその他希望する教員
目的	小・中学校の接続をめざした授業づくりにおいて指導者に求められる資質・能力の向上を目指す。
内容	・小中連携を目指した外国語活動、外国語の新学習指導要領に基づいた授業づくり「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」の指導法について(講義・協議) ・小中英語教育推進リーダーによる公開授業について(授業参観、協議・全2回)
受講予定者数	106名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	・「英語による英語の授業」など、新学習指導要領に沿った新たな英語教育について学ぶ。 ・3回実施
研修名	各教科等教育研修講座・外国語(小中合同実施)
対象	小学校・中学校・義務教育学校各校1名とその他希望する教員
目的	学習指導要領改訂のポイントをもとに、児童生徒の資質・能力を育むための授業づくりについて学ぶ。
内容	指導主事等による講義
受講予定者数	106名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	・学習指導要領改訂に関する伝達内容を周知する。 ・学習指導要領に基づく授業づくり(指導計画・評価計画等)について協議する。 ・1回実施

【小学校・義務教育学校前期課程】

研修名	初任者研修講座
対象	新規採用教員
目的	児童生徒理解を基にした学級経営や授業づくりについて学ぶ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を見る視点からの授業づくりの具体的な手だてや評価について（講義・協議） ・教科の専門性を高めるための多様な指導方法について（選択研修、授業参観・協議） ・生徒の実態をふまえた授業づくりの大切さについて（授業参観・協議） ・新学習指導要領において期待される授業づくりの大切さについて（講義・協議）
受講予定者数	74名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基本について学ぶ。 ・6回実施

研修名	3年次研修講座
対象	経験数2年の教員
目的	初任者研修と2年次研修で身に付けた教員としての基礎的・基本的な力を基に、自主的・計画的な授業公開や研修講座の受講を通して、実践的指導力や課題対応力の向上をめざす。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業力向上のための課題について学ぶ（講義・協議） ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業力向上を図るための課題と改善策について学ぶ（公開授業・研究協議） ・グループ公開授業・研究協議を通して、課題と改善策について学ぶ（授業参観・協議・全2回）
受講予定者数	41名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践、授業参観、協議等を通して自己の授業力を向上させる。 ・4回実施

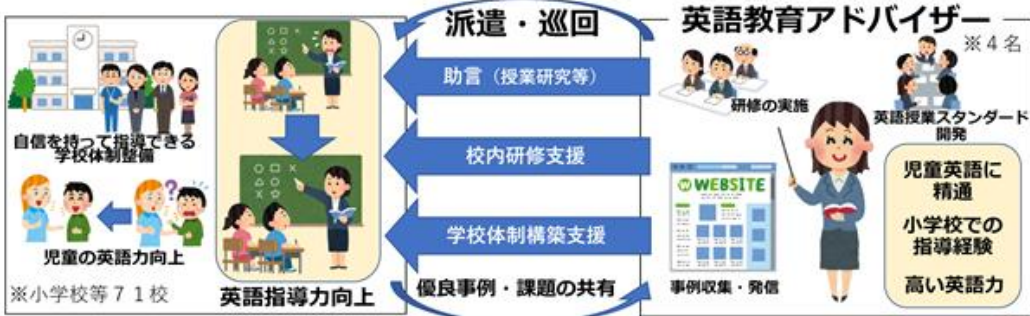
研修名	向上期研修講座
対象	2校目に移動した初年度の教員（令和元年度6年次研修を受講した者を除く）
目的	同僚と関わり合う中での授業研究・授業実践を通して、自分の課題を明らかにし、改善していくことを通して、子ども自身の問題解決力を育むことのできる授業力の向上をめざす。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚と関わり合い、校内で育む授業づくりについて（資料提供） ・公開授業・研究協議を通して、課題と改善策について学ぶ（授業参観・協議）
受講予定者数	46名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、協議等を通して自己の授業力を向上させる。 ・2回実施

研修名	外国語教育推進教師研修講座（小中合同実施）
対象	小学校・中学校・義務教育学校各校1名とその他希望する教員
目的	小・中学校の接続をめざした授業づくりにおいて指導者に求められる資質・能力の向上を目指す。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中接続を目指した外国語活動、外国語の新学習指導要領に基づいた授業づくり「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」の指導法について（講義・協議） ・小中英語教育推進リーダーによる公開授業について（授業参観、協議・全2回）
受講予定者数	106名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語による英語の授業」など、新学習指導要領に沿った新たな英語教育について学ぶ。 ・3回実施
研修名	各教科等教育研修講座・外国語（小中合同実施）
対象	小学校・中学校・義務教育学校各校1名とその他希望する教員
目的	学習指導要領改訂のポイントをもとに、児童生徒の資質・能力を育むための授業づくりについて学ぶ。
内容	指導主事等による講義
受講予定者数	106名
評価方法	参加者対象のアンケートにより評価する。
令和3年度の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領改訂に関する伝達内容を周知する。 ・学習指導要領に基づく授業づくり（指導計画・評価計画等）について協議する。 ・1回実施
研修名	小学校教育研究会外国語活動部会へのALT派遣研修
対象	小学校教諭
目的	小学校英語に関する学級担任の指導力の向上
内容	さがみはら授業スタンダードに基づいた授業を展開するための指導力向上及び英語力向上を図る。
受講予定者数	90名
評価方法	参加者への聞き取りにより評価する。
令和3年度の計画	・年間5回実施する

相模原市英語教育アドバイザー

— 小学校英語に関する指導力向上のためのプロジェクト —

相模原市では「英語教育アドバイザー」を活用して、小学校英語に関する指導力向上のためのプロジェクトを始めます。このプロジェクトは、小学校3年生から中学校3年生までの7年間を見通した相模原市独自の「さがみはら英語授業スタンダード」等を作成・活用し、学級担任の英語指導力向上を目的としています。平成30年度～令和2年度



英語教育アドバイザー派遣による小学校英語に関する指導力向上の3年間の目標



1. 3年間の達成状況

- ・市内全校において、さがみはら英語授業スタンダードの理解と活用が図られ、担任単独での授業が概ね可能となった。
- ・新学習指導要領に沿い、パフォーマンスによる学習評価をすべての先生方が取り組むことができるようになることを目指し、令和元年度に「小学校外国語パフォーマンス評価実践ハンドブック」を作成し、研修を行った。また、令和2年度には「外国語パフォーマンス課題の実施に向けて」を作成し、学校へ提示するとともに、アドバイザーが巡回する中で、各校での研修を行い、各校で2回程度パフォーマンス課題が実施された。

2. 令和3年度への取組

○授業実践動画のライブラリー化

英語教育アドバイザーが各小学校を巡回して記録した、市立小学校教員の授業実践動画を共有し、教員の指導力向上の一助とする。

○パフォーマンス評価ガイドブックの更新

令和3年度以降についても、ガイドブックを更新し各校への指導・助言を継続して行う。

○単元ゴールを意識した指導

パフォーマンス課題をひとつの単元のゴールと捉え、そこに向けて日々の授業をスモールステップで段階的に指導を展開していけるよう、指導主事等が各校での支援を継続していく。

